

令和5年度 奈良県立生駒高等学校 学校評価総括表(年度末報告)

【高等学校用】

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	自立した社会人の育成を目指して、「知・徳・体」の調和のとれた豊かな人間性をはぐくみ、心身を鍛えることによって一人ひとりが高い志をもって目標達成に向けていきいきと行動ができる生徒を育てます。
年度重点目標	自己と他者を等しく尊重し、豊かにコミュニケーションを取りながら互いの価値を高め合おうとする態度を育み、基礎学力の確実な習得、地域・社会の一員としての公共心の涵養、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送る基盤となる体力の一層の増進を目指し、自らの目指す進路・将来像について積極的に考え、実現しようとする意欲を育成する。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒の入学を待っています。 1 本校のスクールミッションを理解し、その達成に前向きに取り組む生徒 2 中学校の基本的な学力が身に付いており、新たな学習に対しても意欲的に取り組む生徒 3 自ら考え、行動する生徒 4 豊かな人間性を身に付け、温もりあふれる人格を養おうとする生徒 5 人間尊重の精神を持ち、すすんで社会貢献しようとする生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	本校では、生涯学習の基盤を培う観点に立ち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成を図ることを基本的なねらいとし、その実現のために以下の方針に基づいた教育を行います。 1 心豊かな人間の育成 2 基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実 3 自己教育力の育成 4 文化と伝統の尊重と国際理解の推進 具体的には次の点に留意します。 ○魅力ある学校づくり ・学校の実態及び生徒の特性や希望する進路等を考慮し、創意と工夫を生かした教育課程を編成します。 ○自ら学ぶ力を育てる学習指導 ・基礎・基本を確実に定着させるとともに、一人一人の個性を生かす教育を推進します。 ・学習に主体的・自律的に取り組ませ、将来にわたって自ら学び続ける態度を育成します。 ○豊かな心を育てる指導 ・厳しく自己を見つめさせ、基本的な生活習慣の確立に向け指導します。 ・自らの適性や可能性を把握させ、自己実現に向け指導します。 ・豊かな人間性や社会性、健康でたくましい心身、国際社会に生きる人間としての自覚を育成します。 ・郷土の伝統、文化、自然等に関する理解を高め、尊重する態度を育成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに以下の資質・態度・能力を身に付けた生徒を育成します。 1 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求め、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を有するとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度 3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度 4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保身に寄与する態度 5 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献する力

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. こころと身体を子どもの成長に合わせはぐくむ	体力の向上	スポーツテストの結果(Tスコア)2.0ポイント以上向上	スポーツテストの結果を全種目において全国平均値を上回り、2、3年生は前年度のTスコアを1.8以上向上	2、3年生のスポーツテストの結果は、前年度のTスコアから1.4のアップにとどまった。体育の3学期の授業では、持久走や縄跳びを行い、持久力、跳力の向上に努めた。	スポーツテストの結果が、全種目において全国平均値を上回り、2、3年生は前年度のTスコアを2.0以上向上させたという目標を来年度達成出来るよう、工夫しながら体育の授業や部活動指導を通じて指導していきたい。	「体力を向上させる目的は何か？」を十分に理解させることも重視しながら、目標達成に向け、取り組んでもらいたい。	毎時間の授業始めに行う基礎体力向上のための筋力トレーニングを継続して取り組んでいく。
	望ましい健康管理意識の確立	学校で実施する全ての健診において、再検査・精密検査の受診率70%以上	学校で実施する全ての健診において、再検査・精密検査の受診率65%以上	全ての健診の再検査・精密検査の平均受診率は31%だった。特に視力26%、歯科28%と目立って低く、その2項目の対象者も多いため、平均値が下がった。聴力、眼科は目標値を超えた。	年2回の受診勧告書の発行に加え、新しい試みとして受診の必要性を示すプリントを配布したが、受診率が上がったとは言えない。来年度はプリントを配布するだけでなく、直接の指導も行いたい。	保護者との懇談時に、受診勧告書を手渡しているにもかかわらず、大きな改善が見られていない。保健等の授業を通じて、生徒自身に検診の重要性を十分理解させることも必要である。	未再診の生徒には、2学期末の三者懇談で受診勧告書を再度渡し、再診を促す。特に、受診率の低い歯科(15%)のほか、視力(17%)、尿検査(29%)等も、再診の必要性を説明し、受診を促進する。
	望ましい食習慣の確立	バランスの良い食事を心がけ、朝食を摂取している生徒の割合が96%以上	バランスの良い食事を心がけ、朝食を摂取している生徒の割合が94%以上	アンケート結果から、全生徒の89.3%が、「毎日」あるいは「ほとんど毎日」朝食を摂っており、そのうちの84%は「バランスの良い食事を摂る」ことを意識していた。	アンケート結果から、全生徒の10.9%が、「朝食を食べない」あるいは「ほとんど食べない」と答えている。授業や集会等様々な機会を通じて朝食の重要性を説くだけでなく、朝食時間を十分確保できる生活習慣の指導も必要である。	規則正しい、栄養バランスの取れた食事の重要性を、保護者にもさらに認識してもらうように努めることも重要である。	引き続き授業等を通じて、バランスの良い食事、規則正しい食習慣の重要性についての認識を深めるよう取り組む。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケートにおいて、「授業に満足している」生徒が90%以上	授業アンケートにおいて、「授業に満足している」生徒が86%以上	授業アンケートにおいて、「授業に満足している」生徒が全体の86.1%(1学期87.8%、2学期84.3%)である。	現行の学習指導要領で謳われている「主体的・対話的で深い学び」の実践としての授業改善に取り組んでいかなければならない。	86%の生徒が「授業に満足している」と回答しているのは素晴らしい。「授業により、学習への意識が向上したか」も指標に取り入れ、生徒の主体的な学びを一層引き出す授業に取り組んでもらいたい。	アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を進めていく。グループ活動をはじめ、共に考え、学び、新しく豊かな発想が生まれる授業にするために、生徒が主体的に学ぶことのできる環境を整え、対話を重視した授業に変えていくことを教職員が共有する。
	学習意欲の向上	生徒の授業外での平均学習時間が2時間以上	生徒の授業外での平均学習時間が1時間45分以上	生徒の授業外での平日の「学校の授業」以外の学習時間が1時間30分以上の生徒が1年生13.2%、2年生19%、3年生53.2%であり、目標達成には至っていない。	単元テストの実施等による生徒の疲弊が言われているが、平日の「学校の授業」以外の学習時間が「ほとんどない生徒が」1年生29.3%、2年生27.1%であり、学習している生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。	学習時間のみに着目すると、やや少ない印象をもつ。「授業内容を理解できているかどうか」も指標として取り入れると良いのではないかと。	学ぶことで、一つ一つの知識がつながり、理解できたことと実感することで、自己肯定感につながる。学ぶ姿勢を前向きに進めるよう、授業改善を進める。
	ICTを活用した授業の推進	ICTを使用することで「学習内容理解が深まった」生徒が90%以上	ICTを使用することで理解が深まった生徒が80%以上	ICTを使用することで「学習内容理解が深まった」生徒が90%以上を達成した。	本年度、ICTプロジェクトチームが「機能不全の状態であった。来年度改めて研修会の開催等によるICTの有効な利用を進めていく予定である。	「学習内容が理解できたか」のみでなく、「学習内容が身についたか」も指標とするべきではないかと。	ICTに関する教員の研修の機会を定期的に設けて全体のスキルを上げていく。積極的に先進校視察を行うなど、多くの事例に触れる機会を設ける。

	教員自身の適切な勤務時間管理による、ワークライフバランスのとれた勤務の推進	年間の時間外勤務の1ヶ月平均が45時間超の教職員の割合が、10%以下	年間の時間外勤務の1ヶ月平均が45時間超の教職員の割合が、20%以下	令和5年4月～令和6年1月までの10か月の間の累積時間外勤務時間が450時間を超えている教員(※管理職除く)は2名であり、全職員の3.5%の状況である。	8月を除外し、休日の部活動指導時間を正確に計上すれば、基準を超える教員はさらに多いと推測される。個々の職員がワークライフバランスのとれた生活を送れるような取組が必要である。	教員がワークライフバランスの取れた働き方を実践することは、授業や指導内容の質の向上につながることは間違いないので、適切な働き方になるよう一層取り組んでほしい。	校舎の施設時間の見直し、定時退校日等の取組を有効に進め、教職員がリフレッシュすることの重要性の認識、時間外に取り組まねばならない仕事かどうかの見極め等を一層促進する。
3.働く意欲と働く力をはぐくむ	インターンシップの充実	医療・看護系のインターンシップに加え大学等でのアカデミック・インターンシップへの生徒の参加率30%以上	医療・看護系のインターンシップに加え大学等でのアカデミック・インターンシップへの生徒の参加率20%以上	キャリアサポートセンターによる夏期インターンシップに7名の申込みがあった。春にもその機会があるが、年度末までに医療・看護系や提携大学との取組を含めて26名が参加した。	参加は全体の3%にとどまり、目標は達成できなかった。アンケート結果から、今後参加したい生徒は47%であり、告知・募集方法等を工夫することで、生徒の参加を促したい。	医療・看護系だけでなく、教育系インターンシップへの参加にも力を入れて取り組み、参加率を高めればよいのではないかと考えている。	インターンシップの案内を整理しわかりやすく提示・案内し、生徒の参加を進める。
	キャリア教育の推進	将来の職業選択につながる大学での体験活動等を3回以上企画	将来の職業選択につながる大学での体験活動等を2回以上企画	3月の家庭学習期間に提携大学へ出向く体験活動を1、2年生を対象に参加を募った。	提携大学の協力により、今年度は対象大学を2校に増やすことができた。今後は更に対象大学を増やし、より多くの生徒の体験を促したい。	大学との連携を進めることは、適切な進路選択につながるため、今後一層、提携大学を増やすなど取り組んでほしい。	提携大学で、授業体験、施設見学、学生との交流等の体験活動をさらに充実させる。
	産業界との連携の推進	キャリア講演会、卒業生による講演会を計3回以上実施	キャリア講演会、卒業生による講演会を2回以上実施	1、2年生において、キャリア講演会を3学期に実施した。	アンケート結果から、多くの生徒が仕事観を育む機会として真剣に考えており、目的は果たせたようである。今後は学年に合わせた内容をより意識して実施したい。	適切な勤労観を育むことは、豊かで充実した人生を歩むためには不可欠である。今後も積極的に取り組んでほしい。	産業界での実務経験をもつ、生徒に身近な講師の体験談を聴くキャリア講演会を充実させる。
4.地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティスクールの運営	学校運営協議会を確実に年間2回以上開催し、加えてICTを利用した委員の意見聴取を2回以上行い、提言を学校運営に反映させる	学校運営協議会を年間2回以上開催及びICTを利用した委員の意見聴取を1回以上実施	6月に第1回目、2月に第2回目の運営協議会を対面により開催した。メールを活用し委員と連携する体制は構築できたが、年間を通じた教育活動の発信、共有をすることができなかった。	「教育は学校が担う」ものだという考え方を転換し、「固い(かっちりとした)学校の教育の枠組みに、地域社会から得られる「柔らかな」社会教育の取組を、柔軟に取り入れ、融合していく姿勢と取組が必要である。	学校の運営に反映させてほしい意見を述べるという、学校運営協議会の取組に、昨年度よりも近づけたと考えるが、もう一段の取組の深化が必要である。	教職員以外の委員であるからこそ持ちうる率直な視点や、各委員から出される専門的な提言の中から、学校で取り入れることが可能なものを検討し、学校行事等への反映を精査する。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」の学習により、「奈良に対する理解が深まった」と感じる生徒の割合が90%以上	「奈良TIME」の学習成果を記録し、「奈良に対する理解が深まった」と感じる生徒の割合が85%以上	アンケート結果から、「奈良に対する理解が深まった」と感じる生徒の割合が88.9%であり、令和5年度末の目標値を超えた。	「奈良TIME探究」を単なる調べ学習にとどまらせるのではなく、探究のプロセスを踏まえた探究活動として生徒に取り組ませることができた。	「奈良」に対する理解が深まっていることは素晴らしい、目標も達成できている。今後、より身近な地域である「生駒市」への理解を深める取組も行ってもらいたい。	「奈良TIME探究」を単なる調べ学習ではない探究活動にし、奈良に対する理解の深まりを実感させるため、生徒各自が設定する探究課題をより具体化させるよう指導する。
	グローバルマインドの育成	国際的に活躍できる、または、国際理解につながる学部・学科へ進学を希望する生徒40名以上	国際的に活躍できる、または、国際理解につながる学部・学科へ進学を希望する生徒30名以上	アンケート結果から、各学年とも100名以上の生徒が、国際的に活躍できる、また進学を希望しており、昨年度の数値を上回り目標値も大幅に超えている。	昨年度までの毎週1回の英単語テストを速読トレーニングに変更した。1、2年生では80%以上、3年生でも70%以上の生徒が「効果がある」と回答しており、国際的分野での活動意欲を高めることに貢献できたと考えられる。	これまでの取組を発展的に変更し、国際的な活動に興味を持つ生徒が、目標値以上に増えており、素晴らしい。より一層取組を進めてほしい。	英語力向上を図るため実施してきた英単語テストやALTのモーニングスピーチ、今年度から週1回朝のSHRで取り組んでいる英語速読トレーニング等について、より効果的な実施方法を検討する。関係学部や留学に関する情報提供を続ける。
5.地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	望ましい生活習慣の確立	時間の有効活用や、計画的行動などを意識し、実行することを心がけている生徒が90%以上	時間の有効活用や、計画的行動などを意識し、実行することを強く心がけている生徒が85%以上	アンケート結果から、遅刻しないことや時間を有効に活用しようという心がけている生徒は60.6%、心がけようとして努力している生徒は36.3%であり、昨年度より微増している。	多くの生徒が時間に対して能動的に行動できている一方で、時間や行動の管理ができない生徒が一部存在する。遅刻者に対して声かけをおこない改善を促したい。	目標を上回る生徒が、時間の有効活用や計画的行動を意識できている。意識することが難しい生徒にも、何かしらの「目標」がもてるように指導をお願いする。	一部の生徒が遅刻を繰り返したりする面もあるため、引き続き時間に対して能動的な行動を取れるよう指導していく。遅刻者、入室者などに対して行動の改善を促す指導を継続するとともに、十分な改善が見られない生徒については、丁寧に分析を行う。
	多様な生徒への支援	教育相談の取組と有効性に対し、肯定的評価をする生徒が90%以上	教育相談の取組と有効性に対し、肯定的評価をする生徒が85%以上	「教育相談への取組」に対するアンケートでの肯定的評価は昨年度同様71%である。「3年生対象の講習」に対する肯定的評価は84%と高く、具体的手立てを示し勧奨することで、行動を起こす力を育むことが概ねできたと思われる。	「教育相談の取組」については、「教育相談便り」の内容の精査に加えITツールの活用など、周知の手立てに検討が求められる。「3年生対象の講習」については高評価であり、自己のストレスマネジメントに対する関心の高さが見受けられた。	ほぼ目標数値通りの生徒が、教育相談の取組を肯定的に評価している。様々な悩みや課題を持つ生徒にも、丁寧に対応しており、素晴らしい。	教育相談についての周知啓発に関して現行の手法での限界が推察されるため、「ツール活用等の検討が必要である。引き続き、「教育相談案内」や「教育相談便り」の発行により、取組の周知を図り、生徒の利用を促進する。「3年生対象の講習」について、今後も生徒の変化を注視しながら継続し、更なる意識啓発に努める。また、多様な生徒に適切な教育活動を提供できるよう、特別支援教育に係る教員の力量を高める。
	「多様性」を尊重し、共に生きていくための意思と実践力の育成	「いじめ」や「差別」に気づいたとき、指摘したり、問題意識を持っている生徒が95%以上	「いじめ」や「差別」に気づいたとき、指摘したり、問題意識を持っている生徒が90%以上	3年生の調査では、「いじめや差別に気づいたとき、どうしますか」という問に対して、93.8%の生徒が「注意する」「誰かに相談する」「されている人に声を掛ける」のいずれかを回答している。アンケート結果から、全学年の90%以上の生徒が、学習によりいじめや差別に対する問題意識や指摘しようとする気持ちが強まったと回答している。	「いじめや差別をしている人に注意する」よりも「誰かに相談する」の割合のほうが高い。今後は自ら指摘できる生徒の割合を増やしていきたい。	目標値以上の生徒が人権意識を高めている。その裏には、有用な「講演会」を企画する等の学校の努力があるものと思われる。今後とも一層取組をお願いする。	「いじめ」や「差別」につながる事象はSNS絡みの場合が多いので、SNSの利用方法などを指導する機会を定期的に設ける。現3年生は、コロナ禍において、本校の人権教育の特色の一つである、知的障がい者施設「かさぐるま」に学ぶ機会が得られなかった学年である。計画期間における具体的目標達成に向けて、人権教育の内容をより深化させるとともに、「かさぐるま」で学ぶ機会を設けていく。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

学校運営協議会委員の方々からは、概ね良好な評価をいただいた。地域においては、教職員が想像する以上に、本校の様々な取組は、好印象をもって受け入れられていることが伺え、ありがたい思いである。また、多くの提案や提言をいただくことができた。中期計画最終年度である次年度は、地域の方々や触れあうような取組を充実させ、期待されている生駒高校の姿を生徒自身が深く再認識しながら、いただいたご意見を取り入れて課題を解決し、中期目標のより高いレベルでの達成を目指す。 ※本校に入学してよかったと回答する生徒の割合93.0%、本校に入学させてよかったと回答する保護者の割合94.5%